

W. ラインの八学年のカリキュラム案に関する一考察

—米国コース・オブ・スタディの一起源として—

中 野 和 光

(第四部教育科)

(平成4年9月10日受理)

1. 研究の目的

W. ラインの八学年のカリキュラム案(『国民学校の理論と実際』⁽¹⁾1888)については、我が国では、明治34年にその理論的部分が『小学校の教授原理』⁽²⁾として、明治35年に各科教授法の部分が『小学校の教授の実際』⁽³⁾として翻訳されている。また、庄司他人男が、『ヘルバルト主義教授理論の展開』⁽⁴⁾(1985)の中で検討を行なっている。庄司によれば、ラインには、ツィラーの、文化史的段階の概念、中心統合の概念、形式的段階の三つの概念を軸にして、「教育目的の設定—教材の選択と配列—教科(教材)の統一—方法的教授単元の構成—単元展開としての形式的段階」という実践的な理論構造が明確に出来上がっており、ここに、ラインの最大の貢献がある。ラインの八学年のカリキュラム案が、マクマリー兄 McMurry, C. A. によって『八学年のコース・オブ・スタディ』⁽⁵⁾(1906)として翻案され、米国のコース・オブ・スタディに大きな影響を与えた事はよく知られている。ウインターズ Winters, Marilyn B. は、この意味において、米国のコース・オブ・スタディの起源は、ラインの八学年のカリキュラム案であると述べている。⁽⁶⁾しかしながら、米国のコース・オブ・スタディは、1906年以前に既に数多く存在している。例えば、1867年に、シカゴの教育長ウエルズ Wells, W. H. は、『等級制コース・オブ・インストラクション』⁽⁷⁾という学習指導要領を著わしている。また、ウエルズの学習指導要領以前にも州の学習指導要領があったことが知られている。ラインの八学年のカリキュラム案は、それ以前からあった学習指導要領と理論面はもちろ

んであるが、形式面において、どのような違いがあり、その後のコース・オブ・スタディにどのような影響を与えたのか、とくに、その形式的な構造を中心にして検討してみたい。

2. カリキュラム, コース・オブ・スタディ, 学習プログラムの区別

最初に、カリキュラムとコース・オブ・スタディの関係を調べてみたい。オクスフォード英語辞典(O. E. D.)によれば、curriculumの項は、次のように記述されている。

A Course

Spec., a regular course of study or training as at a school or university

例として、次の例をあげている。

1633 Munimenta Univ. Glasgow, (1854) III 370.

Finio anni curriculo discessurum

1643 Ibid. II, 317, Curriculum quinque annorum

この記述からうかがえる事は、カリキュラムという概念は、既に17世紀から使われていたこと、それは、スコットランドの大学においてであること、コース・オブ・スタディと同じ意味で使われていたこと、である。

同じ辞書で、courseの項は、次のように記述されている。

本稿は、平成4年7月11-12日に成蹊大学で行なわれた日本カリキュラム学会第3回大会自由研究発表の発表要旨に若干の加筆修正を行なったものである。

22. A planned or prescribed series of actions or proceedings: as of medicine, diet, study, lectures, etc.

例として、次の例をあげている。

1605 D. Boyd in Z. Boyd, *Zion's Flowers*, App. (1855) 31/2

[He] will pass his course at the college within two years.

1781 Gibbon, *Decl. & F. H.* xxxii, 241.

A regular course of study and exercise was judiciously instituted.⁽⁸⁾

この例を見ると、17世紀に既に今日と同じ意味で大学でコースという意味が使われていた事がわかる。コース・オブ・スタディという概念は1781年に既に使われていたこともわかる。

オクスフォード英語辞典であげられた例がもっとも古いカリキュラムという概念の用例かという点に関して、ハミルトン Hamilton, D. は、それよりも古い例として、ライデン大学の例をあげている。ハミルトンによれば、1582年のライデン大学 the University of Leiden の記録にカリキュラムという概念を使った例がある。

ハミルトンは、グラスゴウ大学もライデン大学も、16世紀後半にいずれもカルヴィン主義に関わって設立されたという事から、次のように推測する。

カルヴィンの *Institution* の最終版 (1559) に、*vitae curriculum* という言葉が使われている。カルヴィンは、それをフランス語で書いたが、後にラテン語に翻訳された。このときに、カリキュラムという概念が使われるようになった可能性がある。

考えられるのは、メルヴィル Melville, Scot Andrew である。彼は、聖アンドリュウ大学、ボワチエ大学、パリ大学（彼はそこで Ramus P. の影響を受けた）を卒業後、ジュネーヴアカデミーで5年間教えた後、グラスゴウ大学の校長となり、ラムスの線で改革を進めたといわれている。

ラムスの線というのは、方法 method という概念が、それまでは、調査又は分析の手続きの意味で使われていたのが、次第に、全ての知的な問題の解決にふさわしい標準的な手続きの総体に使われるように成ったことをさす。カリキュラムという概念は、この結果、構造的な全体性とシークエ

ンス上の完全性の両方の意味を持っている。すなわち、カリキュラムは、学ばれるべき (follow) だけではなく、修了 (complete) されるべきなのである。⁽⁹⁾

ハミルトンの解釈は、要約すれば、次のようになる。

- (1) ラムスの影響で、弁証法の教授は、全ての学問領域に適用される一般教育学を用意した。
- (2) 教授と学習の組織化に関するラムスの見解は、カルヴィン主義の規律に関する熱望と一致するようになった。
- (3) カルヴィン主義者の、*vitae curriculum* (キケロが紀元前43年につかったといわれる) という概念を比喩的 (figurative) な使い方の愛好は、16世紀の学校教育の新しく秩序づけられ、順序づけられた特徴の受容に迄ひろげられた。⁽¹⁰⁾

このようなハミルトンの解釈に対して、カリキュラムという概念は、すでに13世紀から使われていたという文献が存在する。すなわち、ラシュダール Rashadall, H. は、カリキュラムという概念を最初に使ったのは、1215年に教皇使節ロベール・ド・クールソンであるとして、次のように述べている。

「1215年教皇使節ロベール・ド・クールソンの作った規約には、教養部で教師の学位を得るのに必要な学課に関する、最初の完全な記述が含まれている。同世紀初頭のなお固定しなかった大学の状態に関して先にわれわれの下した結論がもし十分な根拠を持つものとするれば、ごく初期においては、今日の『カリキュラム』という言葉の意味するようなものは、全然存在しなかったはずである。教養部の試験科目として、一定の書物群を課するという考えが、ボローニャの法学の試験——その試験は、いつも規定の書物によった——によって示唆されたことも、考えられなくはないが、しかし、中世の『書かれた文字』(littera scripta) に対する崇拜からすれば、そうした仮定も必ずしも必要ではない。知識、ないしその究極の拠点に関する中世的観念は、誰かがなにかについて語ったこと以上に出ることは、ほとんどなかったからである。だがともかく、ド・クールソンの新機軸の教育史的重要性は、いかに強調してもしすぎることはない。一般教育の分野に於ける『カリキュラム』の観念は、正に(われわれの資料の示す限り)英

人ロバート・ド・クールソンの大学規則とともに、始まったのである。」⁽¹¹⁾

ラシュドールのこの記述に対して、ハミルトンは次のように反論している。

「16世紀のものと比較して、13世紀の規則は、順序性と修了性が相当に弱い。」⁽¹²⁾

ハミルトンは、16世紀のカリキュラムの概念が全体性を重んじていた証左として、ギルバート Gilbert, N. W. の次の記述をあげている。

「(エラスムスの) Ratio Seu Methodus は、コース・オブ・インストラクションを一つの全体と見なすグループに属する」⁽¹³⁾

カリキュラムという概念にたいするハミルトンの解釈はともかくとして、いずれにせよ、カリキュラムは、初期の使い方では、コース・オブ・スタディとあまり区別して使われていなかった事は確かなようである。

カリキュラムとコース・オブ・スタディと学習プログラムを明確に区別した初期の文献には、「大学入学資格報告書」(1899)がある。その区別は、次のようなものである。

学習プログラム——所与の学校で提供される全ての学習を含む

カリキュラム——生徒もしくは、生徒の集団のために計画的に編成された教科 (studies) のグループを意味する。

コース・オブ・スタディ——所与の教科の中における作業の量、質、方法を意味する。⁽¹⁴⁾

この定義において、学習プログラムは、カリキュラムを含み、無数のカリキュラムを構成するための材料を提供する。コース・オブ・スタディは、プログラムとカリキュラムの両方が、それから構成される単位もしくは要素である。

このような意味で用いていると思われるコース・オブ・スタディの例をあげてみよう。ハプグッド Hapgood, O. C. の『学校における針仕事——縫製のコース・オブ・スタディー』(1893)という書物は、学校のなかで、縫製の授業を行なう場合の教師と生徒のマニュアルとして書かれている。⁽¹⁵⁾

今一つ、コース・オブ・スタディの定義を述べている文献として、モンロー Monroe P. の『教

育百科事典』(1911)をあげてみよう。それによれば、コース・オブ・スタディとは、「学年ごとの教科内容の概要、それらの学習の順序、割り当てられた時間の中での学習すべき分量」の事である。この事典によれば、様々な教科に於ける日々の学習の順序はプログラムと呼ばれる。この事典では、コース・オブ・スタディの見出しは、Courses of Study or Courses of Instruction となっている。⁽¹⁶⁾ このことから、1911年の時点で、コース・オブ・スタディとコース・オブ・インストラクションという両方の概念が使われていたものと思われる。

カリキュラムとコース・オブ・スタディを区別した文献を今一つあげてみよう。

ホシック Husic, J. F. は、つぎのように区別している。

カリキュラム——生徒が学習すべきこと

コース・オブ・スタディ——生徒の学習を援助しようとする教師の試みを案内することを意図した特定の印刷された、又は、タイプされた文書⁽¹⁷⁾

実際、この時代、カリキュラムとコース・オブ・スタディが区別されていたことは、例えば、1921年のクリーブランド中学校の「学習プログラムとカリキュラム組織」という文書を見ればわかる。この文書は、教えられる教科(必修及び選択)と週あたり授業時間数、注意事項、入学、進学、飛び級、能力別編成等について記述した短い文書だが、その末尾で、コース・オブ・スタディは、別に用意されることを述べた次のような記述がある。

「コース・オブ・スタディ——作業を詳細に記述したコース・オブ・スタディは用意もしくは改定され、教師あるいは、関心のあるものは、それを入手しうるのであろう。このコース・オブ・スタディには、必要最小限と能力別編成の規定も記述されている。」⁽¹⁸⁾

コース・オブ・スタディのこれらと少し異なっていると思われる使い方をあげてみよう。イギリスの書物であるが、ロバートソン Robertson, J. M. の『コース・オブ・スタディ』(1904)という書物がある。これは、学問の様々な分野の重要な文献を解題して、学生にそれぞれの学問分野の案内をおこなったものである。⁽¹⁹⁾

このように、コース・オブ・スタディという概念の独自の使い方はあるが、米国の初等中等教育の世界では、19世紀末頃から次第にカリキュラムとコース・オブ・スタディの概念は区別して使われはじめたことは、ほぼまちがいないと思われる。

3. ウエルズのコース・オブ・インストラクション

ウエルズの『等級制コース・オブ・インストラクション』は、全部で10等級からなる小学校のコース・オブ・スタディを中心として、ハイスクールのコース・オブ・インストラクション、規律、暖房、換気などについても述べている。小学校のコース・オブ・インストラクションの第10級の冒頭の部分は次のように記述されている。

第10級
(初級部門)
通常の課程

口頭教授、諸物に関する教授を含む；形、色、花、動物、礼儀、作法について。1日に2つまたはそれ以上の授業。それぞれ5分から8分の長さ。詩と格言の暗唱、別々またはいっしょに。

綴字の練習、黒板や表から読んだり書いたりする。1日に2日またはそれ以上。

1から6まで数える。数表や小石や豆などを使った簡単な足し算。

黒板上に教師によってかかれたスケッチ、書冊、カード、その他の複写物などを見ながら、石版を使って、文字や数字やその他の物を描く練習。学んだ限りの読み方、綴り字、数字の学習の内容を活字体で書くこと。1日に2回かそれ以上。(全ての児童に石版と鉛筆を用意しておくこと)

体操は30分ごとに1回。それぞれ3分から5分。

この等級の授業は1回20分以上を越えないこと。通常の授業は15分で十分、10分でよい場合もある。

指示

(17)口頭教授——第10級の時期は、家庭生活の自由さと教室のより規則的な規律との懸け橋とみなされるべきである。最初の授業は、子どもたちが既によく知っており、興味を十分に持っている、おもちゃ、遊び、友達などについての簡単な会話であるべきである。⁽²⁰⁾

(以下略)

この記述を見ると、コース・オブ・インストラクションが、「所与の教科の中に於ける作業の量、質、方法」と定義される意味がよく理解されるであろう。

ウエルズのコース・オブ・スタディが米国の初等中等教育で用いられた最初のものかという点、そうではなく、1855年にミズーリ州の教育長デーヴィス Davis, E. C. は、次のようなコース・オブ・スタディを含んだ回覧をまわしている。

第一もしくは幼児のクラス

このクラスは、一般的に、婦人によって教えられるべきである。アルファベット、正字法と読み方の最初の授業が教えられるべきである。(中略) このクラスの教科書として私は、次の教科書を勧める；

英語綴り字本, D. プライス
単語作成, R. G. パーカー
第一読本, R. G. パーカー⁽²¹⁾

(以下略)

このことは、すでに1850年代に、出版されたものではないが、コース・オブ・スタディという概念が用いられていたことを示している。

4. ラインの八学年のカリキュラム案の構造

ラインの八学年のカリキュラム案は、全八巻の書物からなっている。

このうち、第1巻は、教育課程構成の理論と、第1学年で教える教科についての説明をおこなっている。第2巻以降は、それぞれ、各学年の教科についての説明を行なっている。教育課程構成の理論の部分では、開化史的段階説、中心統合法、単元、教授の形式的段階説等に関する説明が行なわれている。各学年の教科に関する説明では、それぞれの教科の教材の選択、配列、分節化、教材の取扱い、教授方法、授業例などが、詳細に記述されている。ここでは、第1巻に掲載されている、教育課程の基本線の表(表1)、直観段階の目標一覧表(表2)、概念形成段階の目標一覧表(表3)をあげてみよう。⁽²²⁾

(明治34年の翻訳では、この目標一覧表が翻訳されていない)

これらの表から気付かれることは、次のことで

ある。

- (1) 教科目標、学年目標は、カリキュラムの歴史の中では、ボビットの『カリキュラム』(1918)が有名であるが、ラインの八学年のカリキュラム案の中では、明確にそれらが、提起されていることである。
- (2) 目標の記述が、問いの形で記述されていることである。クリーバード Kliebard, H. M. は、行動目標を用いたカリキュラム構成原理であるタイラー原理は、一つのカリキュラム構成の方法にすぎないことを指摘した⁽²³⁾(1970)が、ラインの八学年のカリキュラム案は、明確にこのことを示している。
- (3) フレーベルの手工が、このカリキュラム案では、明確に位置づけられていることである。フレーベルの手工活動のカリキュラムへの位置付けは、デュイによるシカゴの実験学校のカリキュラム(1986)が有名であるが、ラインの八学年のカリキュラム案は、それよりも先行していることを示している。
- (4) パーカー Parker, F. W. の実践でしられる学校遠足と作文もこのカリキュラムのなかに明確に位置付けられている。
- (5) 教科の相関も意識されている事が看取される。

八学年のカリキュラム案を全体としてみると、理論について述べたところでは、開化史的段階説、中心統合法、単元、形式的段階説を説明し、教科に関する説明では、教材の選択と配列、教材の取扱いに関する注意、教授法、授業例をあげて、いわば、ヘルバルト以来のヘルバルト教育学の成果を「方法学」として、集大成した感がある。⁽²⁴⁾

ダンケル Dunkel, H. B. によれば、当時、ドイツのヘルバルト主義者達は、歴史、宗教、詩などの教科に関するハンドブックを出版していたから、実際的なカリキュラム案としてはラインのものが唯一ではない。ラインのカリキュラム案(ダンケルは、コース・オブ・スタディとよんでいる)の特質は、それが包括的で詳細であるところにある。⁽²⁵⁾

5. マクマリーの八学年のコース・オブ・スタディ

マクマリー McMurry, C. A. の八学年のコース・オブ・スタディ(1906)は、第1学年から第4学年迄を扱ったものと、第5学年から第8学年迄を扱ったものの2冊から成っている。前者につ

いては、未入手であるので、ここでは、後者をもとにして、検討してみたい。

この書物の目次は、次のようになっている。

学習指導要領の道徳的目的
 学校機構を近代的要求に適應させる問題
 教師对学习指導要領
 学習指導要領の柔軟性と適應性
 読み方
 言語
 文学からの抄
 歴史
 文献リスト
 地理
 初等理科
 一般的レッスン
 算術
 手工

学習指導要領の道徳的目的のところでは、マクマリーは、道徳的要素が教育計画の全体構造の基礎となり枠組みとならなければならない、と述べている。この考えは、ヘルバルト学派のものだが、この書物は、当時の社会的目的という議論を受け入れ、学校の社会的組織が道徳的行為が発達する生活の枠組みを用意すると述べている。

学校機構を近代的要求に適應させる問題のところでは、マクマリーは、図工、手工、身体文化などの新しい教科、実習室、学校園、運動場、などの新しい学校環境に適應する必要を訴えている。

教師对学习指導要領のところでは、学習指導要領は、教師に決められた仕事に従わせる足かせかも知れないし、よりよい方向を与えるガイドかも知れないと述べ、学習指導要領がなければ、教師は、途方にくれるであろう、と述べている。

学習指導要領の柔軟性と適應性のところでは、能力と傾向性において異なった個々の児童に柔軟に対応できるようにコース・オブ・スタディを構成すべき事を述べている。マクマリーのこの書物は、このように、基本的な考え方は、ヘルバルト学派の考え方を踏襲しながら、当時の進歩主義教育思想の影響を受け、米国の産業社会に適應するコース・オブ・スタディを構成しようとしている。

教科の説明のところを検討してみよう。

読み方のところでは、各学年の授業に適すると思われる文献を二種類あげている。一つは、通常の授業に使われる文献であり、もう一つは、それ

表1 チューリンゲン八年制国民学校教育課程基本線
(イエナの教育学演習における企画)

A 歴史的・人間的教科（人間生活）														
時 間	Ⅰ 心 情 教 科		Ⅱ 芸 術 教 科				Ⅲ 言 語 教 科							
	聖 書 史	世 俗 史	歌	絵	彫 刻	体 操	読 み 方	作文と 文法	書 き 方					
Ⅰ 学年 小16時間 大18時間	教導の時間と お祈りの時間 クリスマスのお祈り	グリム童話 から一つを 選択	シ ュ テ ィ ャ ー 『感情表現としての歌』	画家 心情教科 郷土科に 関連する 生活形態	専門領域 としての のた、幼 稚園の延 長としての 実際の 仕事	幼稚園の遊びの延長。 物語教材に関連した新 しいかけっこ遊び。 これらの遊びや遠足の 際の規律の訓練	レーメンシッ ク『自己発見 の原理』	書き方の 学習	読み方の 学習と同時 に草書 体の書体 の学習					
Ⅱ 学年 20時間		ロビンソン クルーソー					ロビンソン の読本							
Ⅲ 学年 22時間		郷土 (チューリングン) の歌					チューリン ゲンの伝統							
Ⅳ 学年 24時間	文 化 史 的 編 成	旧約聖書	レ ー ベ 『歌の授業の姿勢』	ニーベル ンゲン時 代の生活 形態	絵 の 授 業 に 関 連 す る 形 の 彫 刻	ニーベルンゲン物語に 関連した民族的訓練。 体操のかけっこ遊び。 自由練習	教材	物語	アルファ ベットの 自習					
Ⅴ 学年 26時間		新約聖書の 予言者 イエスの生涯					ローマ時代 直観的表現			リッター時代を回顧した民族的訓練。戦闘的 性格をもったかけっこ 遊びとボール遊び。 自由練習。 規律の訓練。 道具を用いた集団体操 徒歩による旅行。	1. 読本集成	体操の表 現	第2アル ファベッ トの練習	
Ⅵ 学年 28時間		イエスの生涯					ゴッティッ ク時代 直観的表現				2. 聖書読本			
Ⅶ 学年 30時間		イエスの生涯 使徒パウロ の事跡					ルネッサンス (中世) 直観的表現				3. 歴史読本			比較
Ⅷ 学年 32時間		教会史 教義問答書 抄					ルネッサンス (近世) 直観的表現				4. 詩 集 成			

を補足する文献と参考文献である。一般的な説明はあるが、個々の文献がなぜ選ばれたかについては、良い読み物であるとか、刺激的、英雄的という説明があるのみである。また、それらの配列についても述べていない。それらを使った授業の方法や、授業例もあげていない。

歴史のところでは、第5学年のところの記述は、次のようになっている。

第5学年

ヨーロッパからのアメリカ大陸の開拓者

コロンブス：彼の偉大な目的とその結果

キャボット：短い物語

マゼラン：最初の世界一周

コルテス：メキシコの征服。メキシコの
インディアン。

コロナド：南西部の開拓。

B 自然科学(自然生活)							
Ⅰ 地理学			Ⅱ 自然科学		Ⅲ 数学		
数学的地理	自然地理	学校遠足	技術経済系列	観察系列	空間学	計算	手工
大陸の位置と運動の観察	近隣の環境の散策と観察	ショルツ 『学校遠足』	郷土の観察 (学校庭園)		マルティンとシュミット 『空間学』	1から10までの計算	幼稚園の仕事の延長
						1から100までの計算	
	郷土、ザール溪谷、ウンストルト溪谷郷土地図伝説の舞台の地図	ザール溪谷ウンストルト溪谷				1から1000までの計算	
天球の表面的回転	チューリンゲンの森、ライン領域 ドナウ領域	チューリンゲンの森	森と草原	バイアー 『学校の自然科学』	立方体 長方体 三角柱	無限の計算	夏：学校の仕事 冬：学校の作業場
地球の表面のゆがみ	(北ドイツ、中部ドイツ) ヴェーゼル、エルベ、オーデル、ヴァイクセル	ハールツ山脈	野原	ザイフェルト 『労作学』他	四角柱	小数の四則計算	数学などの教科に関連させて
	アルプス 地中海諸国 スイス、オーストラリア ハンガリー	ローヌ山脈	家		合同 円計算 円筒	分数計算	
星座の距離と等級	ヨーロッパ大陸の外部	ルター大地	水		円錐 円錐台 ピタゴラスの定理	いわゆる市民的計算法	
数学的地理のまとめ	プロイセン スキャンディナヴィア諸国、フランス、オランダ、ロシア、英国 ドイツ植民地	ライプツィヒ山脈とエルツ山脈	生活共同体としての大地		球・円錐の面積 楕円形 黄金分割		

ドレイク：スペインの植民地に対する
海賊の航海

西部開拓物語⁽²⁶⁾

(以下略)

これらの教材に関する説明は、次のようになっている。

「こうして、2年間（5学年と6学年）がアメリカの開拓時代にあてられる。そこでは、開拓者と初期の植民者の生活、困難、環境が取り扱われる。主要な年代は教えられねばならないが、年代記は重要ではない。大切なことは、主要な人物あるいは、事件の完全な、生き生きとした、現実的な描写をすることである。(以下略)」⁽²⁷⁾

このように教材の取り扱いにたいする注意は記述されているのであるが、授業に関する説明は、

表2 A直観段階：目標の記述

		聖書史	世俗史	歌	絵画	彫刻	読み方	作文と文法	書き方
I	低	神をお願いしうる富者と貧者について		がちょうを選んだずい泥棒の歌	赤頭巾ちゃんの前であらわれた物を描く	粘土でくろみの実をつくる	児童が母にあてた手紙の文字を説明する	「肉をくわえた犬」の物語で、物事ゆゑを追って起こることに気づかせる	大文字のように見える小文字を書く
II	学								
III	年								
IV	中	一人の従者は王にいかにかくを負っているかを王はいかにして発見するか	ドイツ人はローマから自由になることをいかにして決断したか	キーホイザーで魔法にかけられて眠った皇帝の歌	修道院内聖堂の特徴を見出す	粘土でピレネー半島をつくる	騎士の時代の歌から古城の祭まで	これまで書いた作文の誤りをたくみに避ける	Cという字のように左側に弓なりになった字を書く
V	学								
VI	年								
VII	高	パウロはいかにしてギリシアの賢者に説教したか	いかにしてフリードリッヒ大王は祖国を再建したか	いかにして一人の敬虔な詩人は、30年戦争後に平和が訪れたことを神に感謝したか	イエナの塚々に見出されるルネッサンスの装飾を描く	三つの様式を粘土でつくる	ナポレオンはいかにしてイエナ合戦で勝ったかという文章を読む	学校の建物をそれを歩いているように描写する	両親に昨日学校旅行から帰ったことを知らせる電報を打つ
VIII	学 年								

この書物にはない。この点は、マクマリーは、この時期に、この書物を出版したマクミラン社から、教授法に関する書物を多数出しているところから、それらに譲ったのではないかと考えられる。すなわち、この時期、マクマリーは、マクミラン社から、次のような教授法に関する本を出版している。

『一般教授法の諸要素』

『授業の方法』

『完全な英語古典の特別な教授法』

『初級読み方と物語の口頭教授の特別な教授法』

『地理の特別な教授法』

『歴史の特別な教授法』

『初級理科の特別な教授法』

『算術の特別な教授法』

『言語の特別な教授法』

これらの事から考察してみると、個々の教科の説明においては、マクマリーは、教材の選択と配列においては、ラインの影響を受けながら、その

数学的地理	自然地理	学校遠足	自 然 科		空 間 学	計 算	手 工
家のどちら側にいると もっともよく太陽の高さを避けられるかに気づく	州代官の住んでいる方角への遠足でザール溪谷の東側をしらべる	ウンストルト溪谷を旅行し、チューリンゲンの州代官の住んでいる場所をさがす	部屋はどこで同じでどこでちがうか	みつばちは学校園のどの花をさがしているか	(石、くるみ、栗、球は何によってよりよく転がるか)	昼食をするときに何枚のお皿をつかいますか	草の茎でロビンソンのような帽子をつくる
地球は平たい表面をしているか	アルプス山脈とドナウ河の間のドイツの国土	ローヌ山脈で人々の仕事、聖者の記憶、山の形と岩石について注意する	農民にはがまんできないうちが子どもたちはよく知っている植物	ザール河でどのような石を発見しますか	学校の屋根はどのような形をしているか	製本屋さんは、一冊の本に何枚の紙があるかどのようにしてはかるか	修道院付属教会を厚紙でつくる
太陽が地球の回りを回っているがどのようにして調べたか	オーストラリア大陸はいかにして発見されたか	ルターが生まれ、活動し、死んだ国々を探究する	いかにして光のあとにおくれて雷鳴がこきえるのか	冬にはどのような鳥がいるか	聖ヤコブ通りと下の哲学者通りによって仕切られた三角地はどんな形をしているか	教室の空気量をいかにしてはかるか	木で写真を撮る小部屋をつくる

記述の形式においては、相当にその説明を簡略化している。それは、ラインの八学年のカリキュラム案が全8巻でかかっているのに対し、マクマリーのそれは、2巻でかかっていることが、一つの原因であると考えられる。あるいは、マクマリーは、最初から、コース・オブ・スタディと教授法を切り離して考えていたとも考えられる。

ウィンターによれば、1896年のカンサス州のコース・オブ・スタディは、マクマリーの8学年の

カリキュラム案が、非常に参考になるとのべているという。⁽²⁸⁾ また、ウィンターによれば、この時代の米国のコース・オブ・スタディは、読むべき教科書と補足文献、参考文献をあげるのが特徴的であったという。⁽²⁹⁾ ラインのカリキュラム案にも、文献をあげているところはあるのだが、教材の選択と配列、授業法に関する説明の方がはるかに多い。

全体としてみると、ウエルズの学習指導要領が、

表3 B概念形成段階：抽象目標

		聖書史	世俗史	歌	絵画	彫刻	読み方	作文と文法	書き方
I	低	ある人には幸せがある人には災いが来る。それはいかにして来るか。その希望において人は人を認識する。飢えた人にパンを与えよ。		この歌を唱うときにはどんな口の形にすればよいか	かご、水さし、おかしを描くときどのような線でかけばよいか	他の物体をつくる前に何をつくればよいか	いかなる他の文字の前にMをおくかいかにしてそれを発音するか	なぜこの順番にくるのか	なぜこの文字は他の文字に似ているのか、けれども人はそれを区別できる
II	学								
III	年								
IV	中	キリストは人間の前に鏡をおいたその中に何を見るか	ドイツ民族はアルミニウス王に何を感謝しなければならぬのか	この歌はいかなる音からなっているか	学校の建物とイエナの国教会と教会の建物の比較	国土の表現はいかなる作業をすればよいか	この詩はいかなる詩的美しさを示しているか	3つの時制の意味は何か	似ている文字をまとめたり、ことになっている文字を区別するのは何によってか
V	学								
VI	年								
VII	高	なぜギリシアの賢者は予言者パウロについて学ぶことができなかったか	フリードリッヒ大王は自分が国家の第一の下僕であることをどうして示したか	2つの歌の間の区別は何か	ルネッサンス絵画にはいかなる特徴があるか	さまざまな様式の主要な手段の対比それらはいかにして表現されているか	これらの作品を朗読するときには何に注意しなければならないか	文章を書くときに注意すべきことは何か	電報はいかに書かれねばならないか
VIII	学 年								

当時の実践の水準をもとに、いわば、経験的に作られたものであるのに対して、ラインの八学年のカリキュラム案は、ヘルバルト学派の理論を基礎にし、教授方法も含んだ質量ともに重厚なものである。マクマリーの八学年のコース・オブ・スタディは、ラインのカリキュラム案を基礎にはしているのだが、全体として、相当にその説明を簡略化している。ラインの教育課程の基本線の表や目標一覧表にあたるものが、マクマリーのコース・オブ・スタディにあるかどうかは、上巻が未入手

なのでわからない。下巻にはない。

6. クック郡師範学校付属実習学校のコース・オブ・スタディ

カリキュラムの内容を表形式で示したもので、パーカー Parker, F. W. が校長をしていたクック郡師範学校の付属実習学校のコース・オブ・スタディ (1985) がある。これは、師範学校のコース・オブ・スタディと同時に実習学校のコース・

数学的地理	自然地理	学校遠足	自 然 科		空 間 学	計 算	手 工
なぜ正午にはどこにも陰ができないのか	州代官の住んでいるところの上の方の土地はザール溪谷の下の方の土地とどのように区別されるか	チューリンゲンの州代官の住んでいるところまでの遠足をまとめる	部屋に壁や天井がないことはよいことか	なぜ、みつばちはこれらの花をさがすのか	これらの4つはどのように区別されるか	2ごとに数えたと何に気づくか	被り物は何からつくられるのか
地球の正しい形は何か	南ドイツ高地はどの程度まで注目すべき両面性を示しているか	ローヌ山脈に住んでいる人々は圧倒的にカトリックであるのは何故か	なぜ私たちはこの花を愛し、農民はそうでないのか	ザール溪谷にこれらの石があることから何が結論されるか	ピラミッドはいかなる特徴をもっており、いかにしてそれは計算されるか	どのような順番で計算したらよいのか	厚紙から最善の弓を切りとるにはどうしたらよいのか
地球と太陽との関係に関する今日の科学は何を教えているか	オーストラリア人はどうしてその大陸の中で奇人であるのか	ルターの人生活を遠足で主に年代記的に理解する	速い物の順序は？	これらの鳥はどうして口ばしで区別できるのか	三角形を決定するにはいかなる叙述をすればよいのか	十進法の数をどのようにして相互に乗ずることができるのか	木の板同士をどうしたら完全に密着して結合できるか

オブ・スタディを示したものである。教科は、言語、読み方、音楽、地理、歴史と文学、美術、手工について記述されている。算術と理科は師範学校については記述されているのだが、実習学校については記述されていない。表形式で示されているのは、地理、歴史と文学、美術、手工である。表形式は、教科ごとに示されている点は違うが、教科を横軸に、学年を縦軸にとるなど、ラインの八学年のカリキュラムと類似の点が伺われる。⁽³⁰⁾これは、ドイツに留学したパーカーが、当時ドイツ

で行なわれていたカリキュラム案の形式の影響を受けたのではないかという推測が成り立つ。しかし、1825-26年のハーヴァード大学のコース・オブ・インストラクションは、横軸を学年に、縦軸を学期にとって教えられる教科を記述しており、⁽³¹⁾表形式でコース・オブ・スタディを記述することは、米国では、それ以前からあったわけで、この推測が正しいかどうかはわからない。

引用文献

1. Rein, W., A. Pickel und E. Scheller, Theorie und Praxis des Volksschulunterrichts nach Herbartischen Grundsätzen, Verlag von Heinrich Bredt, Siebente Auflage, 1903. Das erste Schulejahr—das achte Schulejahr.
2. ヴェー・ライン, アー・ピッケル, エー・シェルレル著, 山口小太郎, 佐々木吉三郎訳『小学校の教授原理』同文館, 明治34年.
3. ヴェー・ライン, アー・ピッケル, エー・シェルレル著, 波多野貞之助訳『小学校教授の実際—第一学年—』同文館, 明治35年.
本書の序文に, 順次第八学年に至るまでを訳述せん, と書かれている.
4. 庄司他人男『ヘルバルト主義教授理論の展開』風間書房 1985 229-261ページ.
5. McMurry, C. A., Course of Study in Eight Grades, Mcmillan, 1906 (1895) .
6. Winters, M. B., The Course of Study in American Education, diss., Claremont Graduate School, 1984 Abstract.
7. Wells, W. H., A Graded Course of Instruction, A. S. Barnes, 1867 (1862) .
8. The Compact Edition of the Oxford English Dictionary, Oxford University Press, 1971.
9. 以上 Hamilton, D., Towards a Theory of Schooling, The Falmer Press, 1989, pp. 43-49 にもとづく.
10. Ibid., p. 49.
11. ラシュドール・H. 著, 横尾壮英訳『大学の起源』(上) 東洋館出版社 1966 343—344ページ.
12. Hamilton, op. cited, p.53.
13. Gilbert, N. W., Renaissance Concept of Method, Columbia University Press, 1960, p. 108.
14. Report of Committee on College Entrance Requirement, 1899.
15. Hapgood, O. C., Needlework in School—A Course of Study of Sewing—, 1893.
16. Monroe, P., Cyclopedia of Education, Vol. 2, Macmillan, 1915 (1911) .
17. Hosc, J. F., What are the Essentials of a Course of Study? , in Department of Superintendence, Second Yearbook, 1924, p. 127.
18. Cleveland Junior High School, Program of Studies and Curriculum Organization, 1921, p. 7.
19. Robertson, J. M., Courses of Study, Watts, 1904.
20. Wells, op. cited, p. 39-40.
21. Cockrill, D. J., Development of the Missouri Elementary School Curriculum, 1820-1948, diss., University of Missouri 1949, p.22.
22. Rein, W. usw., A. A. O. S.
23. Kliebard, H. M., Tyler Raionale, in Bellack A. A. and H.M. Kliebard, eds., Curriculum and Evaluation, McCutchan, 1977, pp. 56-67.
24. 中野和光「教育学と教育方法学との関連に関する試論的考察」福岡教育大学紀要 第27号 第4分冊 1978 15—24 参照.
25. Dunkel, H. B., Herbart and Herbartians, The University of Chicago Press, 1970.
26. McMurry, C. A., op. cited, p. 76.
27. Ibid, p. 79.
28. Winters, op. cited, p.22.
29. Ibid, p. 44.
30. Course of Study of the Cook County Normal School, The J. M. W. Jones Stationary and Printing, 1895.
31. Morison, S. E., Three Centuries of Harvard, Harvard University Press, 1936, p. 235.